

# 農業振興策について

## 園芸品目の産地化

**質**

豊後大野市の農業振興策について、これまでの政策を踏まえ、今後どのようにしていくのか。

**答** 市長

今後の園芸振興は、すべての作物をまんべんなく事業展開するのではなく、限られた予算の中で、効率よく園芸振興が図られる施策

を考えていき、本市の園芸品目の産地化に向けた取り組みを行っていきたいと考えます。

また、本市の園芸品目として、夏秋ピーマンは西日本一の産地であり、園芸振興の柱として推進し、里いも、かんしょ「甘太くん」、白ねぎを戦略4品目とし、重点6品目と合わせて、園芸10品目を今後5年間に集中的に推進していく計画です。



のり 義 義 義 義  
くつ かけ よし のり  
杏 掛 義 範



**質**

農業用ビニールは野菜、果樹、花きなどの栽培を効率的に行うための被覆材として、今日の農業には欠かせないものです。

少しでも農業生産意欲を上げ、農業の振興、活性化につなげるためにも、一つの手段として農業用ビニールへの助成を考えては。

**答** 市長

市内にはおおむねハウス面積で30ヘクタール、マルチ栽培400ヘクタール、トンネル栽培で20ヘクタールあり、仮に助成制度を設けた場合、大きな財政負担を生じることになります。

現段階では「農業振興計画」に則した補助事業を展開してまいりたいと考えます。



千歳町

## 国民保護計画の周知は

～ケーブルテレビでも検討～



さとうのりよし  
佐藤 徳 宣

**質**

豊後大野市国民保護計画について、市民に周知徹底しているのか。

**答**  
総務部長

国民保護計画を作成する段階で、市民からの幅広い意見を求めるために、パブリックコメントを実施しました。また作成後には、市のホームページに国民保護計画を掲載し、いつでも閲覧できるようにしています。

今後は、ケーブルテレビを利用し、国民保護についての情報提供や国民保護計画とはどういったものかをお知らせできないか検討したいと考えています。

## 小規模集落での防災訓練を

～希望のある地区で実施～

**質**

小規模集落では、特に訓練をしていなければ、いざという時に動けないので、ぜひ高齢者を対象にした訓練を実施してほしいという一部の市民の声もあるが、希望のある地区で実施してはどうか。

**答**  
市長

市内には高齢化が進んだ小規模集落が多くあります。平成22年3月末現在、70歳以上の割合が50%以上の集落が21地区もあります。

昨年度は、県の「小規模集落対策事業」に2地区が取り組み、緒方町の上畑地区では、消防署、県、防災機関



上畑地区の防災訓練

と連携し、道路が寸断され急患が発生した場合を想定し、防災訓練を実施しました。

また、消防署では地域や自主防災組織、企業からの要請のほか、地域で開催している「いきいきサロン事業」などで消火および防災訓練を行っており、平成21年度140カ所、受

講者は6000人を超えている状況で、中には毎年訓練を実施している地域や自主防災組織もあります。

小規模集落での訓練も、消防署および防災・福祉担当が連携して対応しており、今後も希望のある地区は実施してまいりたいと考えています。